



**Web  
A c c e s s i b i l i t y  
I n f r a s t r u c t u r e  
C o m m i t t e e**

これから取り組むWebアクセシビリティ 2019 大阪

# こうすればできる！ ウェブアクセシビリティ試験実施のポイント

2019年1月18日（金曜日）

中村 精親（ウェブアクセシビリティ基盤委員会 作業部会3（試験）副査）



# イントロダクション

自己紹介と本日の内容について

# 自己紹介

- 株式会社ミツエーリンクス  
アクセシビリティ部 マネージャー  
中村 精親（なかむら きよちか）
- ウェブアクセシビリティ基盤委員会  
作業部会3（試験）副査



# WAIC WG3とは

<https://waic.jp/committee/wg3/>

- 試験に必要な課題検討と資料の作成
  - ▲ [JIS X 8341-3 試験実施ガイドライン](#)の作成
  - ▲ 実装チェックリスト例の作成
- 試験の普及に関する活動
  - ▲ [ウェブコンテンツのJIS X 8341-3 対応度表記ガイドライン](#)の作成
  - ▲ 試験方法に関する国際動向の把握及び国際協調



# 本日の目的

これからWebアクセシビリティに取り組まれる方々に

- JIS X 8341-3を用いた試験とはどんなものか
- 試験を実施する（してもらおう）際に知っておくべきポイント

をお伝えすることが目標です。



# 本日の内容

- 試験とは？
- (JIS X 8341-3を用いた) 試験方法
- ウェブページ単位とウェブページ一単位
- 第三者によるコンテンツ
- 試験の手順
- 試験結果の表示
- まとめ



# 試験とは？

JIS X 8341-3における試験とは

# 「試験」を辞書で調べると……

- 1 ある物事の性質や性能などをためしてみることに。また、検査すること。「新建材の耐久性を試験する」「試験飛行」
- 2 入学・入社・登用などの採否を決めるため、問題に答えさせたり実技をさせたりして、学力・知識・能力などを判断・評価すること。考試。考査。「試験に受かる」「実技の試験」「面接試験」「筆記試験」

試験（しけん）の意味 - goo国語辞書

<https://dictionary.goo.ne.jp/jn/95550/meaning/m0u/%E8%A9%A6%E9%A8%93/>





# なぜ「試験」を実施するのか？

- 試験したからアクセシビリティが向上するわけではない
- しかし、試験ができることで客観性、透明性が確保されるため、例えば調達仕様や評価の基準として用いることができる
- 内容が明確となっている方法で試験を実施し、その結果を公開することで、外部からでも試験結果を参照し、達成基準を満たしているかどうかの評価ができる



# JIS X 8341-3 : 2016には……

- **「附属書JB（参考）試験方法」** という内容が載っている  
→まずこれを読みましょう！
- [JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン](#)も  
この「試験方法」が前提となっています

参考：

日本工業標準調査会：工業標準化とJIS-JISの入手閲覧方法

<http://www.jisc.go.jp/jis-act/reading.html>



# (JIS X 8341-3を用いた) 試験方法

「附属書JB（参考）試験方法」の概要を把握する

# 「附属書JB（参考）試験方法」の構成

たった4ページしかありません！

- JB.1 適合試験の要件
  - ▲ JB.1.1 ウェブページ単位
  - ▲ JB.1.2 ウェブページ一形式単位
- JB.2 試験の手順
- JB.3 試験結果の表示
  - ▲ JB.3.1 表示事項



# 「適合試験の要件」

- 試験する対象を決めましょう、ということですが、いきなり聞き慣れない言葉が出てきます
  - ▲ ウェブページ単位
  - ▲ ウェブページ一式単位
  - ▲ 第三者によるコンテンツ
  - ▲ 代替のウェブページを提供する場合
  - ▲ 依存していないウェブコンテンツ技術



# ウェブページ単位と ウェブページ一式単位

試験結果が担保する対象となるページ（サイト）を明確にする

# 「ウェブページ一式」とは？

ウェブページ一式 (set of Web pages)

共通の目的を共有し、同じコンテンツ制作者、グループ、又は組織により制作されたウェブページの集合。

<https://waic.jp/docs/WCAG20/Overview.html#set-of-web-pagesdef>

→一般的なウェブサイト、サイト内カテゴリなどが当てはまる



# ウェブページ一式単位で試験する際の 試験対象の選び方

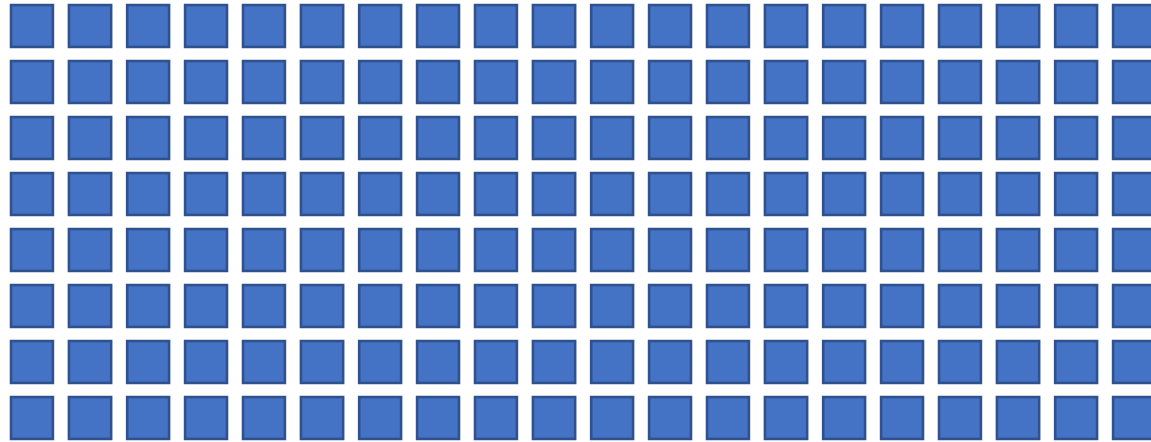
- 全てのウェブページを選択する
- ランダムに選択する
  - ▲ 対象すべてからランダムサンプリングで選択すること
- ウェブページ一式を代表するウェブページを選択する
  - ▲ 選択すべきページは JB.1.2 c) を参照
- ウェブページ一式を代表するウェブページとランダムに選択したウェブページとを併せて選択する





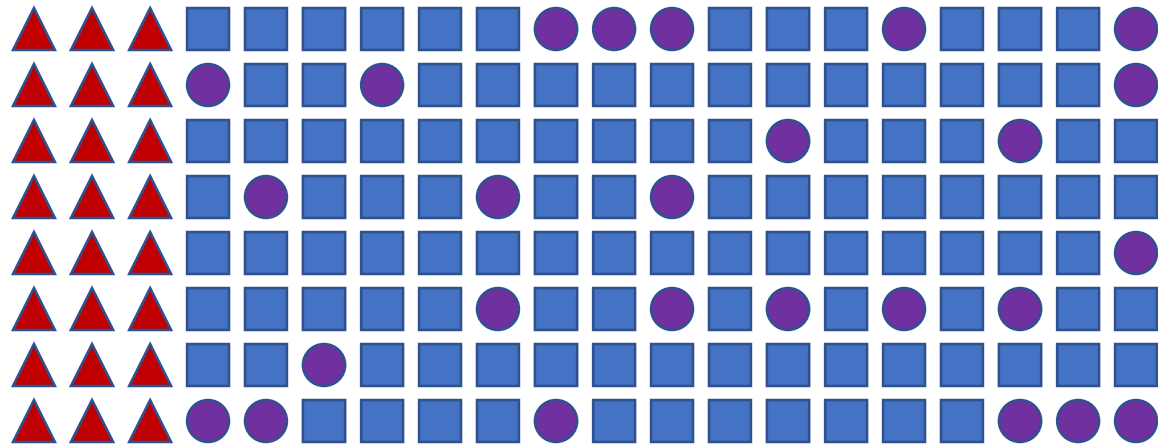
# ウェブページ単位とウェブページ一式単位の試験の違い

- 例) 160ページのウェブサイトで50ページ試験を行う



# ウェブページ単位とウェブページ一式単位の試験の違い

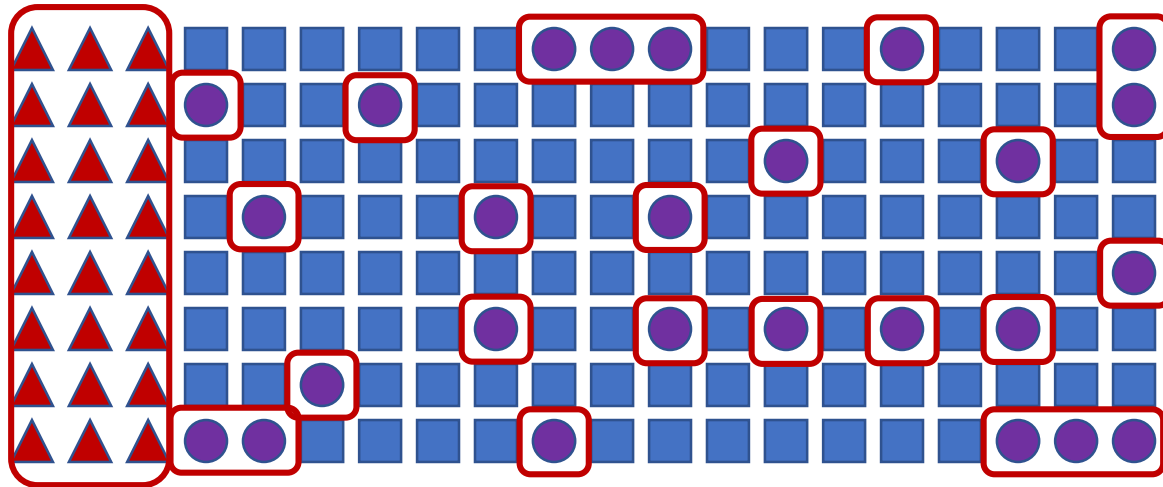
- 例) 160ページのウェブサイトで50ページ試験を行う



ウェブページ一式を代表するウェブページ：24ページ  
ランダムに選択したウェブページ：26ページ

# ウェブページ単位とウェブページ一単位の違い

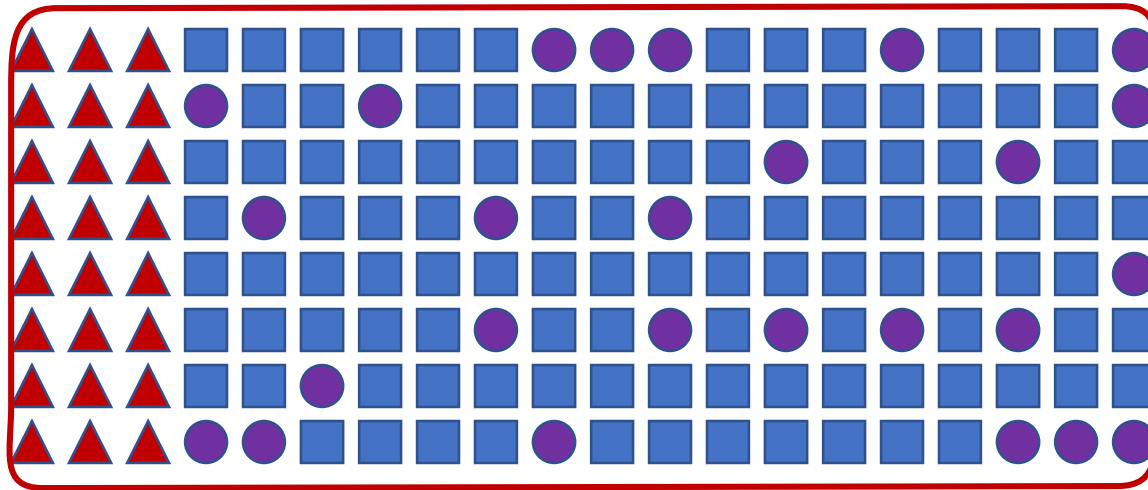
- 例) 160ページのウェブサイトで50ページ試験を行う



ウェブページ単位の試験では  
「対象範囲が50ページ」  
試験を行ったページ以外は試験の対象ではない

# ウェブページ単位とウェブページ一式単位の試験の違い

- 例) 160ページのウェブサイトで50ページ試験を行う



ウェブページ一式単位の試験では  
「対象範囲が160ページ」  
試験を行っていないページも試験の対象

# ウェブページ一単位位の試験では……

- 試験を行ったページ以外も試験対象とすることができる
  - ▲ 例えば10,000ページのサイトを50ページ試験を行って、10,000ページ全体が準拠である、とすることができる
- ただし、相応の根拠が記載されているべきである
  - ▲ そのひとつがランダムサンプリング (= どのページを無作為に抽出しても問題がないことを証明する)



# ウェブページ一単位での試験でのよくある問題

- ランダムサンプリングで抽出したページで問題が見つかったため、修正した（ここまでは問題ない）
- その後、再度同じページを対象に試験を実施し、「ランダムに選択したウェブページ」として試験結果を公開した（これが問題）

→どうしなければならなかったか？



# ランダムに抽出したページに問題があった場合

- 問題があったページの修正をする
- 問題があったページと同様の問題が試験対象内にはないかどうか確認し、問題があった場合は修正する
- 再度試験する場合は試験対象全体から再度ランダムにページを抽出し直す
- 抽出し直したページで試験を行い、問題がなければ「準拠」



# 第三者によるコンテンツ

制作後にコンテンツが追加されるようなウェブページについて



# 第三者によるコンテンツ

JB.1には「第三者によるコンテンツがあるためにウェブページ全体を試験できない場合は、5.3を参照する。」という記載があります。



# 第三者によるコンテンツとは？

- 「コンテンツ制作者が制御できない」コンテンツ
  - ▲ 制作後にコンテンツが追加される場合
    - 「利用者がコメントを追加できる」コンテンツ
  - ▲ 複数の提供者から集めたコンテンツで構成される場合
    - ポータルサイト、ニュースサイトなど
  - ▲ 他の情報源からその時々自動的に挿入される場合
    - 動的に挿入される広告

など



# 「5.3 部分適合に関する記述 – 第三者によるコンテンツ」

- 「部分適合」という考え方があるが勘違いしやすい
  - ▲ 「このページは適合していないが、制御されていない情報源に起因する以下の部分を除けば、この規格にレベル X で適合していることになる。」というような記述ができる
  - ▲ 「部分適合」の場合、あくまでも**ページとしては適合していない**、という点に留意して欲しい



# 試験の手順

「附属書JB（参考）試験方法」で定められた手順を確認する

# 「JB.2 試験の手順」の構成

- a) 試験環境の確認
- b) 試験対象の特定
- c) 達成方法及び検証方法の特定
- d) 試験結果の記録
- e) 達成基準チェックリストの作成



## a) 試験環境の確認

「試験に先立って、使用しているウェブコンテンツ技術を確認する。」

- HTML、CSS、JavaScriptなどのことをウェブコンテンツ技術と呼んでいる、ということは知っておきましょう
- 実際には制作する担当者や会社がサイト/ページ制作前に明確にしておくべき要件です



## b) 試験対象の特定

「JB.1 によって試験の対象となるウェブページ及び方法を選択し、特定する。」

- ウェブページ単位とウェブページ一式単位について理解し、適切な範囲を明確にしましょう



## c) 達成方法及び検証方法の特定

「達成基準に基づいて、達成方法及びその検証方法を特定できる技術的根拠を明確にする。」

- 一般的には「実装チェックリスト」というものを作成することになります

※現在WG3にて「試験実施ガイドライン」改定作業中ですので、詳細は最新版の公開をお待ちください





## d) 試験結果の記録

「対象とするウェブページを選択し、試験を実施し、その結果を記録する。」

- ここまでに確定させた情報に基づき、試験を行います



## e) 達成基準チェックリストの作成

「試験結果に基づき、達成基準チェックリストを作成する。表 JB.1 に、達成基準チェックリストの例を示す。“適用”の欄には、その達成基準を適用すべきかどうかを記載する。例えば、音声コンテンツが存在しない場合には、音声コンテンツに関する達成基準は適用されないが、その達成基準は満たしているとみなすことができる。

“結果”の欄には、その達成基準を満たしているかどうかを記載する。

“注記”の欄には、その達成基準が適用されない理由などを記載することができる。」



# 達成基準チェックリストの例

- 試験を実施した結果をまとめて記載します

表 JB.1－達成基準チェックリストの例（一部）

達成基準	適合レベル	適用	結果	注記
1.1.1 非テキストコンテンツ	A	○	○	
1.2.1 音声だけ及び映像だけ（収録済み）	A	－	○	動画，音声コンテンツなし
1.2.2 キャプション（収録済み）	A	－	○	動画，音声コンテンツなし
1.2.3 音声解説又はメディアに対する代替コンテンツ（収録済み）	A	－	○	動画，音声コンテンツなし
1.2.4 キャプション（ライブ）	AA	－	○	動画，音声コンテンツなし
：				
（以下省略）				



# 試験結果の表示

「附属書JB（参考）試験方法」で推奨されている表示事項を確認する

# 「JB.3.1 表示事項」

「試験結果を表示する場合は、次の内容を含むようにすることが望ましい。」

- 1) 表明日
- 2) 規格の規格番号及び改正年
- 3) 満たしている適合レベル
- 4) 対象となるウェブページに関する簡潔な説明
- 5) 依存したウェブコンテンツ技術のリスト
- 6) 試験対象のウェブページを選択した方法（JB.1.2 参照）及び選択したウェブページ数
- 7) 試験を行ったウェブページのURI
- 8) 達成基準チェックリスト
- 9) 試験実施期間



# 「準拠」 「一部準拠」 「配慮」

- JIS X 8341-3 : 2016の規格票には出てこない  
→ 「適合」できるのであればJIS X 8341-3だけで問題ない  
……が、実際には難しいことも多い
- WAICによる独自の定義  
[『ウェブコンテンツのJIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン』](#)

参考 : JIS X 8341-3:2016 解説

<https://waic.jp/docs/jis2016/understanding/201604/>



# 「準拠」するには？

「準拠」は、ウェブコンテンツを『JIS X 8341-3:2016』の要件に従って制作・開発し、『附属書JB（参考）試験方法』に示されている手順などを参考に試験を実施したうえで、**目標とした適合レベルに該当する達成基準を全て満たしていることを示すため**に使用することができる。

「JIS X 8341-3:2016に準拠」とする際には、『附属書JA（参考）ウェブアクセシビリティの確保・維持・向上のプロセスに関する推奨事項』の「JA.1 企画」で示された**ウェブアクセシビリティ方針の策定及び公開**を行い、『附属書JB（参考）試験方法』の「JB.3 試験結果の表示」で示されているように**試験結果を表示**(注1)するものとする。

(注1)：「表示」とは、ウェブサイト等ではサイト上で公開することであり、コンテンツ等の納品においては納品書類等に明記することである。

ウェブコンテンツの JIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン  
<https://waic.jp/docs/jis2016/compliance-guidelines/201603/>

より引用（ただし、強調はスライド作成者による）



# 「準拠」できない場合は？

- 「一部準拠」  
今後の対応方針を示すことが重要  
対応できない箇所について理由を明示し代替案を提示する
- 「配慮」  
試験は実施できないが、JIS X 8341-3を用いて制作したことを示すことはできる

いずれの場合も現状を明確に示し、利用者に必要な情報を伝えることが重要

特に「方針」において連絡先を明記することなどを検討すべき





# 「一部準拠」の好事例

試験結果（2017年度） | ウェブアクセシビリティについて - ジェトロ

<https://www.jetro.go.jp/accessibility/results2017/>

- 目標と現状を明確に示している
- 問題があった点についての対応方針を示している
- 問い合わせ先が明確である



# まとめ

本日の内容を振り返ります

# JIS X 8341-3の「試験」を知るために

- 「附属書JB（参考）試験方法」を読みましょう
- 「試験対象」となるウェブページと「試験を行った」ウェブページの違いに気をつけましょう
- 「適合」「準拠」「一部準拠」「配慮」の違いを知り、適切な試験結果を公開できるようにしましょう





**Web  
Accessibility  
Infrastructure  
Committee**

これから取り組むWebアクセシビリティ 2019 大阪

こうすればできる！  
ウェブアクセシビリティ試験実施のポイント

2019年1月18日（金曜日）

